



2025年度

地域別交流会

開催レポート

2025年8月23日に仙台・大阪・岡山、30日に東京・名古屋・鹿児島で、地域別交流会を開催しました。三菱みらい育成財団では、助成先の皆さまに交流の場を提供する「プラットフォーム事業」の取組みとして、年4回、オンラインと対面の交流会を実施しています。助成先および3年間の助成期間を終えた「アルムナイ」同士が情報交換し、ネットワーク化を進めることで、相互の気づきと学びを生み、グッドプラクティスの横展開につなげることを目的としています。地域別交流会は、近隣でのつながりを促しコミュニティづくりのきっかけとする場として、2日間・6会場で開催するものです。今回は184人にご参加いただきました。その様子をお届けします。

ありのままの言葉で出会い、ひらめきが生まれる場に

参加者の皆さまにはクジでグループを作っていたいただいた後、同日開催している3会場をオンラインでつないでお互いに手を振ってご挨拶。その後、いよいよ交流会スタートとなりました。今回のコンセプトは「ありのままの言葉で出会い、ひらめきが生まれる場」。生徒や同僚、仲間など、他者の心のエンジンを駆動させることが多い参加者の皆さん自身の心のエンジンを見つめる機会としたい、そのためにありのままの言葉で対話し、ひらめきを生み出す場としたいという思いが込められています。

まずは皆さんに今日一日大事にしていきたい「グランドルール」をお伝えしました。①「違い」を味わい面白がってみる、②未完成なままで大丈夫、知らんけど～！な意見が相手にとって新しい光になる、③問いかけ合うよう心がける、の3つ。このルールを意識しながら対話を進めていきます。最初のセッションはお題となる問いから

東京



3会場をオンラインでつないで、
今日一緒に「探検」する仲間と手を振ってご挨拶

鹿児島



30日は鹿児島会場にいる理事の妹背から
3会場の皆さまにご挨拶させていただきました



一般財団法人
三菱みらい育成財団

3つのキーワードを考えるというもの。出された問いは「心のエンジン」を育むために、わたしが大切だと思うことは?」。改めて問われるとなかなか出てこないもの。これまでのことを振り返りながら、悩みながら出したキーワードをもとに、その言葉と背景をグループのメンバーに共有し、対話していきます。また相手の話を聞く中で思ったことや感想、気づきを付箋に書き、渡し合うことで、ひらめきを言語化・可視化していきました。

大阪



「わたしが大切だと思うこと」の3つのキーワードを書き出して、グループの皆さんに共有いただきました

名古屋



皆さんからのアドバイスや気づきをもらって、自分のテーマを深めていきます

COLUMN

肩の力を抜いていただくための「お楽しみ」

「楽しさ」は対話を活性化するうえで必要不可欠な要素。交流会では皆さんに楽しんでいただくための「仕掛け」をいくつか用意しています。例えば最初の自己紹介では、カラーペンでA4用紙に自由に丸を5つ書いていただき、お名前とどこから来たのか、そしてこの丸の作品についてのこだわりやポイントを解説していただきました。顔になっていたり、自分の今の気分を表していたり…。その人の個性を表す5つの丸が、「初めまして」の自己紹介を盛り上げてくれました。

2度目にグループを作った時は、「以心伝心ゲーム」を実施。たとえば「夏祭りの屋台と言えば?」のお題に対し、全員が「焼きそば」と答えれば点数がもらえます。実際には「焼きそば」が多数、一人だけ「チョコバナナ」となってしまう場面も。「お総菜パンと言えば?」「体育祭の競技と言えば?」など、一見全員一致しそうで、なかなか合わない答え、思いもよらない答えに会場は笑いに包まれました。まさにグランドルールの「違いを味わう」を体感する時間となりました。

岡山



自由に書いていただいた丸は一体何を表しているのか。自己紹介と共に説明していただきました

東京



「以心伝心ゲーム」で全員同じ回答になったグループ。「東京土産と言えば?」、もちろん「東京バナナ!」

結論を出さなくてもOK。各チームから生まれた「ひらめき」とは

休憩をはさんで、先ほどもらった付箋や自分で書いたワードなどを整理しつつ、もっと深掘りしたい「探検」したいテーマを考えていきます。困っている・もやもやしていること、意見が欲しい構想中のこと、ここにいるメンバーの視点から意見をもらいたいこと…。テーマが決まったところで、シャッフルで違うメンバーでチームを作り、「探検」を進めていきます。グランドルールを意識しながら、進め方については、一人ひとりのテーマについて順番に話していても、グループで一つのテーマを決めて深めていってもOK、自由に探検していただきました。約70分の長丁場でしたが、終了の合図があっても対話はなかなか止まりません。再び休憩をはさみ、各チームで得られたひらめきを全体共有しました。



鹿児島



深めたいテーマをグループのメンバーに共有していただきました

仙台



グループの発表内容に、深くうなずきながら聞く参加者も

「持ち寄ったテーマが、『未知とはなぜ魅力的なのか』『好奇心が湧くには』『生徒がもっと主体的に動けるようになるためのアイデアやヒントは』『学校以外の人とつながること』だったのですが、それぞれ絡み合っているなど。生徒たちの世界が広がれば、それに対して主体的なリアクションアクションを取れるようになるはず。その世界を広げる一つの方法としては、学校を飛び出して、いろんな人と関わることっていうのがとても大事だよなという話になりました。実は、このグループは全部違う県の高校の先生が集まったので、相互にオンラインとかでつながりながら、例えば探究のデータや研究内容を共有して、さらにそれを発展させることもできるよねと、いろんなアイデアが出てきました」

「あるあるな話だと分かったんですが、探究の授業が午後にあると生徒は帰っちゃうんです。生徒がそこまでのストレスを感じているのは、教員に火がついていないからじゃないかと。ではどうするかを考える中でモヤモヤの森に迷い込んで、最終的にじゃあ管理職になったらどうする？という発想になって、先生方にまず探究しましょうと言える校長や理事長を妄想していました」

「さまざまな肩書のメンバーが集まったこのチームではお茶を飲みながらゆったり話そうというスタンスで、結論のようなことは出さずに話しました。良い問いとはなにか、今の10・20代が将来や未来に対してどんなイメージを持っているのか、若者たちの心理的安全性を共有できる場づくりなど、お茶を飲みながら哲学を語り合ったような時間となりました」

「小学校から大学まで学びを続けるためにはという話し合いの中で出てきたワードが『未完成』。高校の先生から、探究の中で生徒たちはたくさん調べてくけど、専門的な知識がなくて、結果的に成功体験ができていないというお話が出てきたときに、逆に学びの成果が出なかったことを課題にして、次の大学教育に結びつけたらどうかという意見が出てきました。高校の中で学びが見つからない、解決できなかったことを、また大学に持って行って学びを続けていく。未完成であることが、学びを続けていく原動力になっていくというようなことを我々のチームでは共有しました」

各チームの探検から生まれたひらめきに、会場からは深いうなずきや拍手が送られました。交流会はここで終了しましたが、約4時間の対話を経てもなお話し足りない皆さまは懇親会へ。引き続き、つながりとひらめきを生み出していただきました。

名古屋



たくさん書いていただいた付箋を共有していただきながら、グループでたどった思考の軌跡を発表いただきました

岡山



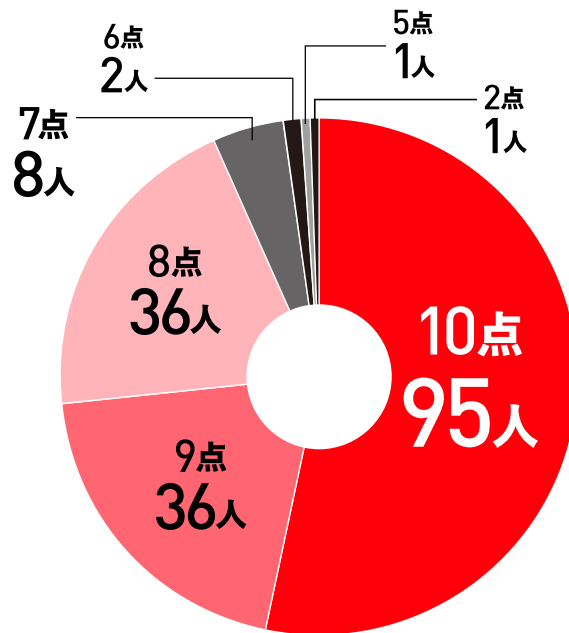
最後に、今日の“探検”を振り返って
どんなひらめきが得られたのかを、お互いに共有



アンケート結果から

Q

本日のワークショップの満足度を教えてください。(10点満点中)



Q

新しい気づき、感想、今後取り組みたいことを教えてください。

- ◆ 探究の本質は生徒が自己変容を認識できること、という言葉に強く共感しました。自己変容を認識できること＝心のエンジンが駆動することだと思いました。(カテゴリー1／仙台)
- ◆ 頭の中にあってもやもやしていたことが言語化できたことで、探究について改めて考えることができました。肩書がない状態でのワークショップはとても新鮮で面白かったです。問いが全体的にゆるかったので、考えの幅がとても広くて自由に議論できました。(カテゴリー1／仙台)
- ◆ 一周回って、そもそも学校(高校)って何を学ぶところなんだろうという疑問になりました。今までの教員のスタイルが覆ろうとする新しい学びの形(カタチ)の前に、私たち教員はどれだけ謙虚に素直に向き合わなければならないのか試されています…。(カテゴリー1／東京)
- ◆ それぞれの所属先で中心的な役割を担いながらも、悩みつつ「やってみている」「やってみようとしていく」姿を知り、新たな勇気や安心感を得ることができました。こうした「出会い」を重ねることで、自分もさらに「やってみよう」と前向きな気持ちになりました。この出会いをきっかけに、探究活動や教育活動にさらに挑戦できると思うと、とてもわくわくしました。(カテゴリー1／名古屋)
- ◆ 生徒の視座を変えるためのロールモデル、そしてなぜそのモデルにあこがれるのかを言語化させ、生徒の心のエンジンを駆動させていきたいと思いました。人脈は宝です。普段お会いできない方々とのつながりをありがとうございました。(カテゴリー1／大阪)
- ◆ 他校の先生方からお話を伺う中で、各校の取組み(内容)だけでなく、そのプログラムができた背景や担当者の思い、価値観、地域の実態、生徒の様子等について具体的に知ることができたのが大変勉強になりました。プログラムが自走化するためには、いつまでも学校が「ボール」を持つのではなく、生徒や地域にゆだねる勇気を持つことが重要であると気づくことができました。(カテゴリー1／岡山)



- ◆ どの学校も課題はあるものの、本校を採択していただいた5年前と比べると、その課題の内容のレベルが高くなっていることに気が付きました。日本全体に三菱みらい育成財団さんが果たされた影響力の大きさを感じました。(カテゴリー1／岡山)

- ◆ 昨年初めて参加させていただいてから、視察・来校していただいたの授業、校内研修への参加など、助成先である複数の学校と交流することができています。今後も可能な範囲で交流を続け広げていきたいと思っています。(カテゴリー1／岡山)

- ◆ 探究の授業の一つのアイデアとして、「ゼミ化」というワードが気になりました。先生も生徒と一緒に探究をすることも面白いと思いました。私の学校は、大学進学者が少ないので、高校で少しでも「大学」というものに近い体験をさせてあげることができれば、卒業後に就職したときに大きな意味を持つのではないかと思います。(カテゴリー1／鹿児島)

- ◆ 何かをやるときに本来理由は必要ないものの、理由を作る必要性が求められている現状があります。これにより、教育がいかに手探りの状況にあるかを改めて実感しました。(カテゴリー2／東京)

- ◆ 今日のような交流会は、私たちのように学校外で行っているプログラムとうまく連携できる道の突破の一つになりそうです。自分たちも心のエンジンがかかる感じで楽しかったです！(カテゴリー2／鹿児島)

- ◆ 結論を出さず、とにかく会話・対話を楽しんだ。違った立場から見えてくる知見は興味深い。考える楽しさ、知を得る喜びを感じられた。(カテゴリー2・3／東京)

- ◆ そもそも「なぜ失敗を恐れるのか」という根本から対話できたことで、思いもしない意見をうかがえた機会になりました。(カテゴリー3／東京)

- ◆ 探究について考える際、「そもそも探究とは何か」と分類してみる発想が斬新だった。また、普段は学生との交流が中心で、先生方の視点を知る機会が少なかったため、新しい視点を得られてよかった。(カテゴリー3／名古屋)

- ◆ “人”に依存しがちな教育現場で、いかに“心エンジンを育む”探究学習の場を維持・進化させられるかについて、さまざまな立場があることを知りました。自身の立場で何をすべきかを考える良い機会となり、視野が広がり非常に勉強になりました。(カテゴリー3・5／名古屋)

- ◆ 高校で何をしているのかを知ることができて毎回学びが多いです。担当しているアントレプレナーシップ教育が、探究学習で苦勞されている高校で活用されてほしいと思いました。(カテゴリー3／大阪)

- ◆ 探究学習では、ティーチングよりもファシリテートが求められますが、高校の先生の多くはその方法を知らない現状があり、やはり現場の先生は大変だと感じました。また、「正解がない」という特性が探究学習だからこそポジティブな影響を与えると感じました。さらに、「そもそも論」と「根拠の可視化」は、現状認識や思考の整理・改善において強力なツールであると実感しました。(カテゴリー4／名古屋)

- ◆ ワークショップをやる機会が多いので、今回の場の創り方が刺激になりました！(カテゴリー5／東京)

集合写真

東京



東京



仙台



名古屋



大阪



岡山



鹿児島

